

AITC 10/7

『ビジネスAR』の現在とこれから

2019年10月7日 先端IT活用推進コンソーシアム

ビジネスAR研究部会 サブリーダー 西野貴志

あらすじ

- Biz-ARの活動内容
- ハイプサイクル 2015～2019
- テクノロジーへの注目と、期待のゆらぎ
- Augmented Human
- IoT から loAへ

Biz-AR



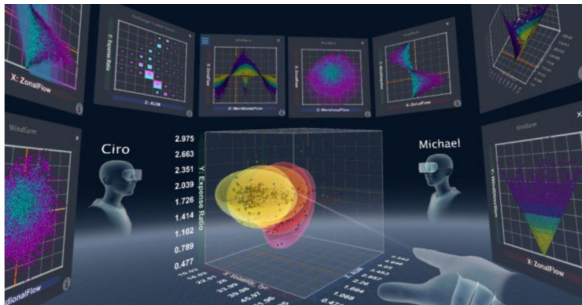
ARCore



Apple ARKit /
Google ARCore リリース



「VR版エクセル」



「乗り物酔いを防ぐメガネ」

Amazon Sumerian

The fastest and easiest way to create VR, AR, and 3D experiences



Amazon Sumerian発表

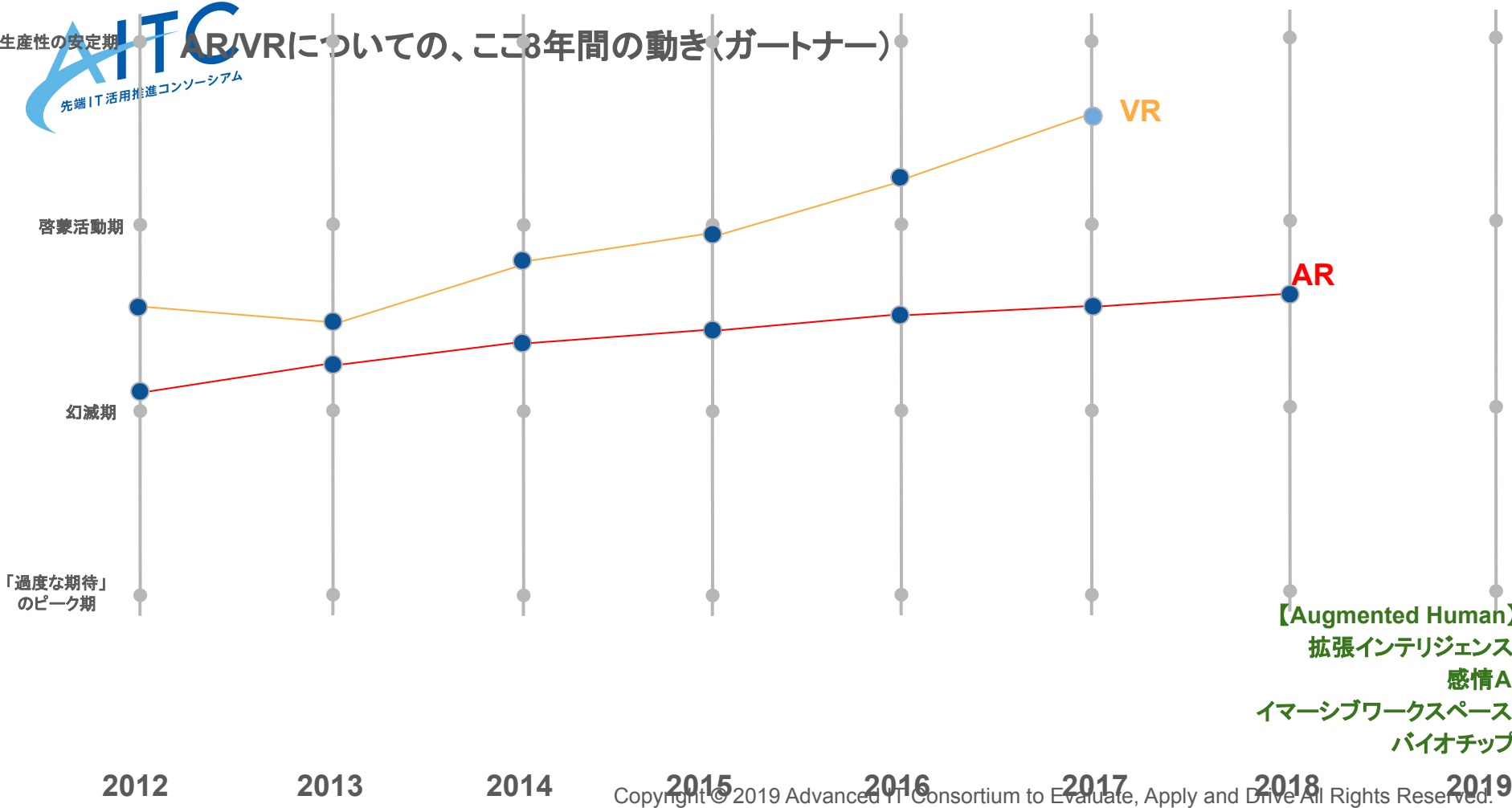
2018

『VRChat』人気爆発

Magic Leap ONE発売



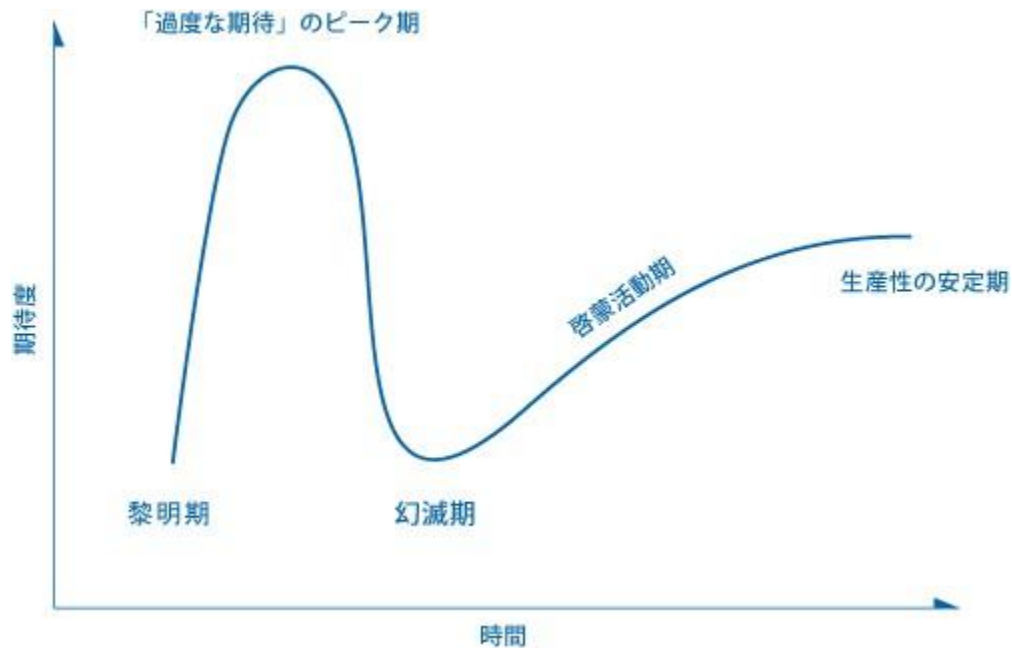
AR/VRについての、ここ8年間の動き(ガートナー)



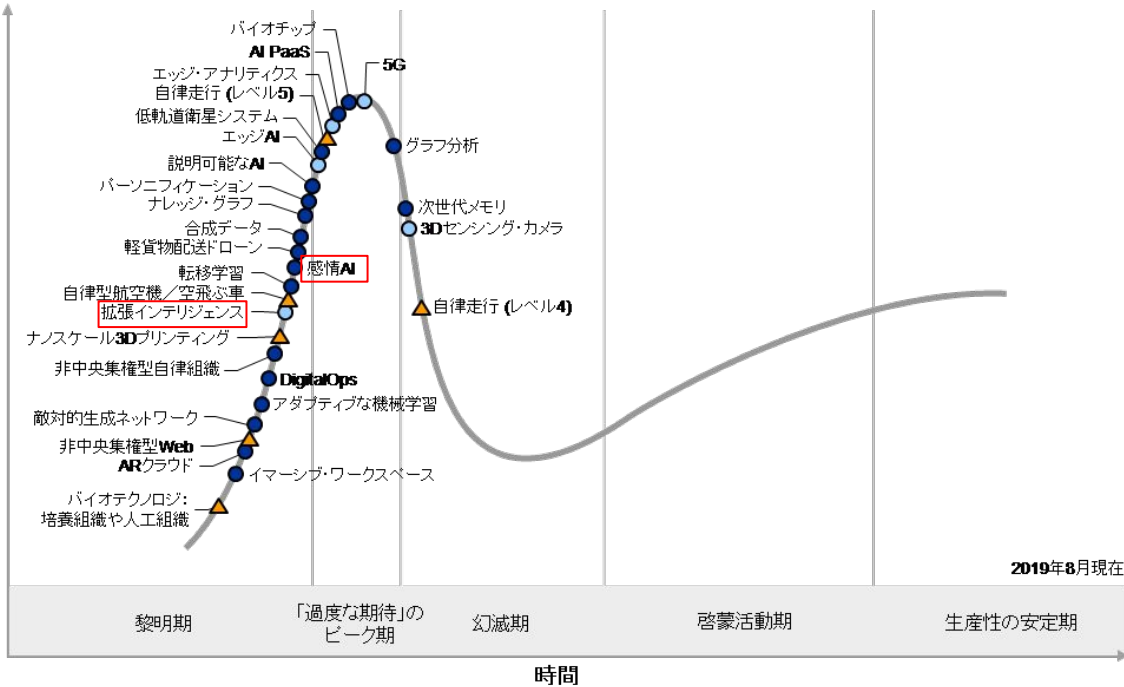
【Augmented Human】
 拡張インテリジェンス
 感情AI
 イマーシブワークスペース
 バイオチップ

ハイプサイクル
2015～2019

先進テクノロジーのハイプ・サイクル



先進テクノロジーのハイブ・サイクル 2019(ガートナー)



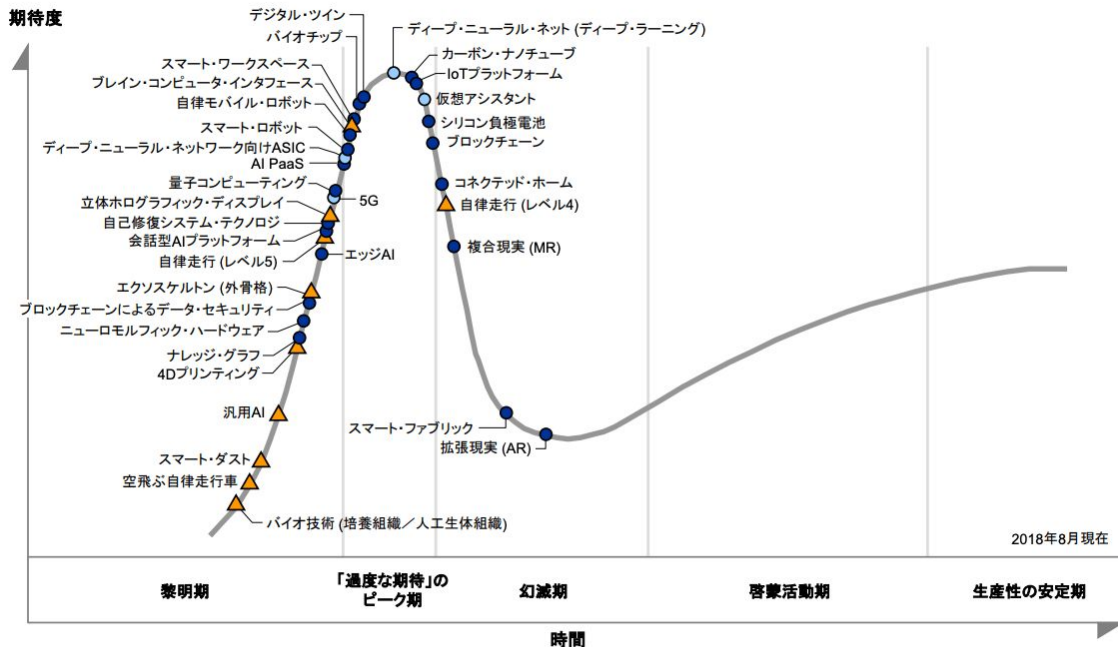
主流の採用までに要する年数

- 2年未満
- 2~5年
- 5~10年
- ▲ 10年以上
- ⊗ 安定期に達する前に陳腐化

© 2019 Gartner, Inc.

- ・拡張現実 (AR)
- ・スマート・ファブリック
- ・複合現実 (MR)
- ・コネクテッド・ホーム
- ・ブロックチェーン
- ・シリコン負極電池
- ・仮想 (パーソナル) アシスタント
- ・IoTプラットフォーム
- ・カーボンナノチューブ
- ・ディープラーニング
- ・デジタル・ツイン
- ・スマートワークスペース
- イマーシブワークスペース
- ・ブレイン・インターフェース
- ・スマートロボット
- ・ホログラフィック・ディスプレイ

先進テクノロジーのハイブ・サイクル 2018(ガートナー)



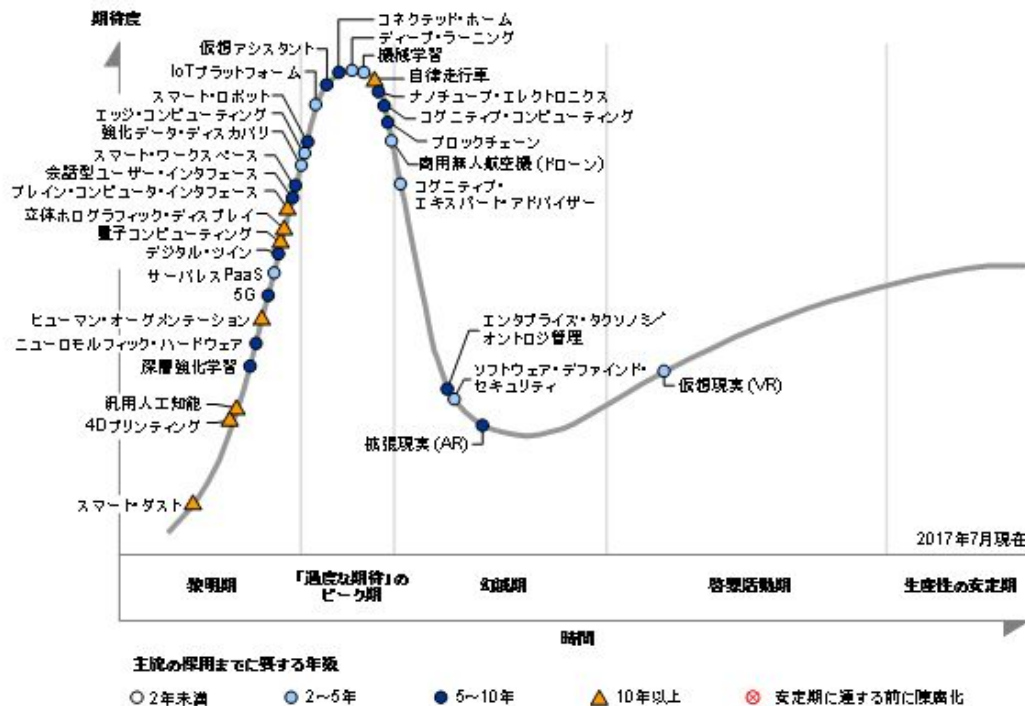
主流の採用までに要する年数

- 2年未満
- 2~5年
- 5~10年
- ▲ 10年以上
- ⊗ 安定期に達する前に陳腐化

© 2018 Gartner, Inc.

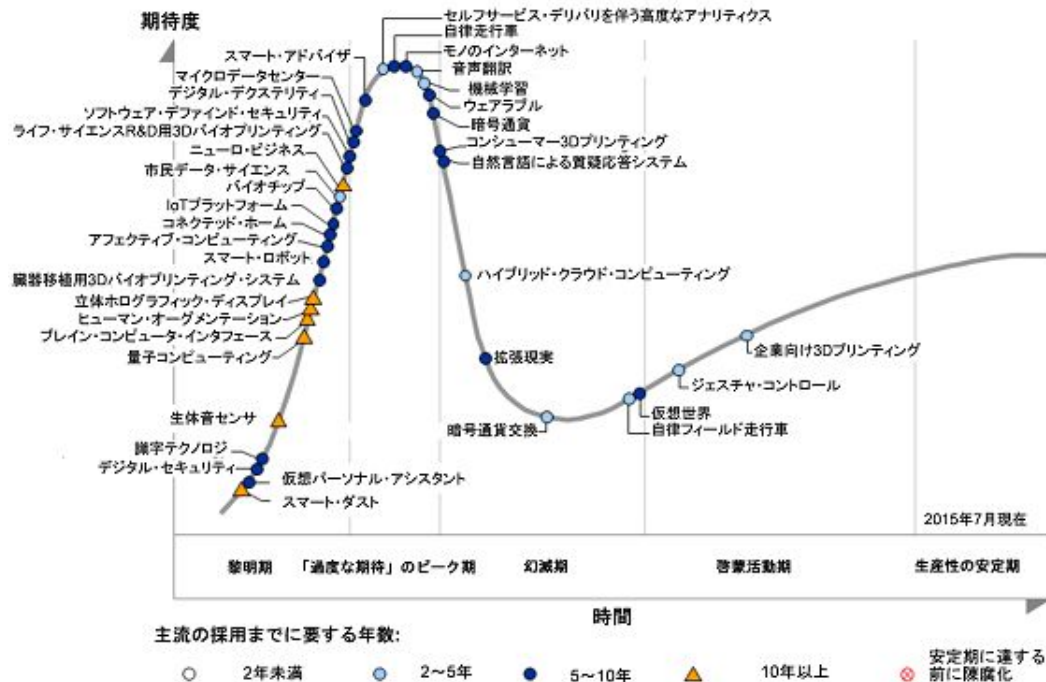
- ・仮想現実 (VR)
- ・エンタプライズタクソノミ
オントロジ管理
- ・ソフトウェアデファインド・セキュリティ
- ・コグニティブ・エキスパートアドバイザー
- ・商用ドローン
- ・コグニティブ・コンピューティング
- ・ナノチューブエレクトロニクス
- ・機械学習
- ・エッジ・コンピューティング

先進テクノロジーのハイブ・サイクル 2017(ガートナー)



- ・ソフトウェアで定義された何か
- ・自然言語による質疑応答システム
- ・マイクロデータセンター
- ・アフェクティブ・コンピューティング

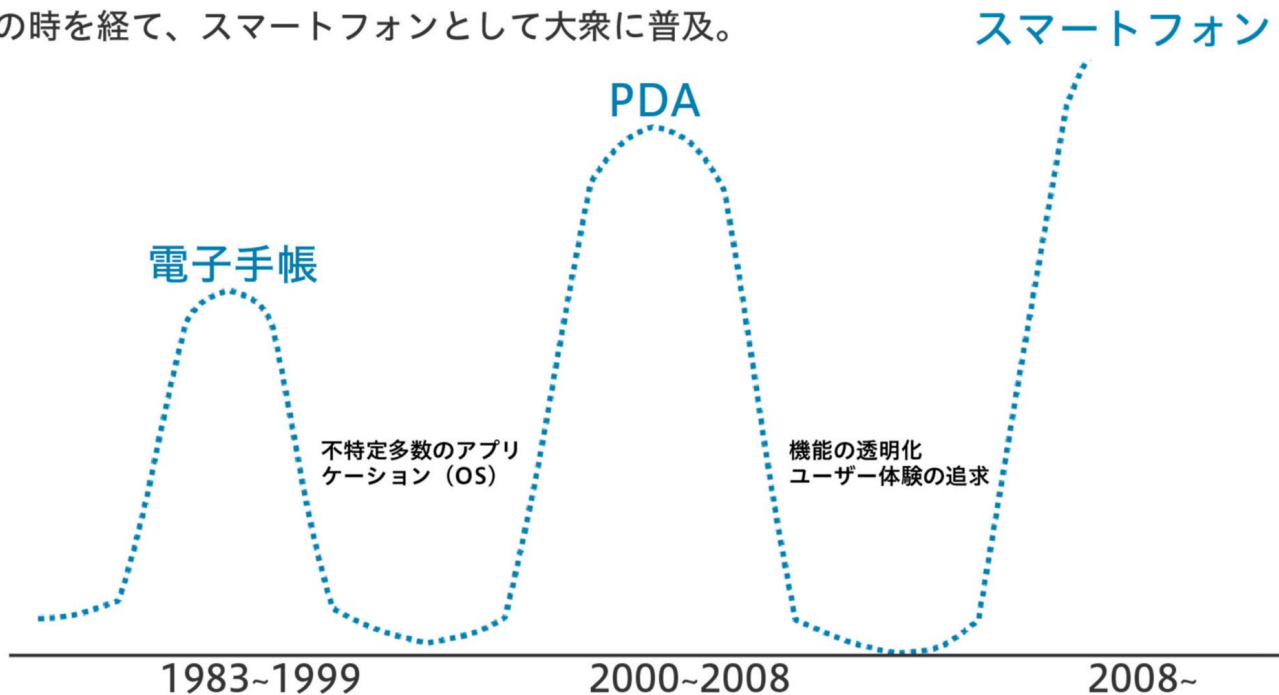
先進テクノロジーのハイブ・サイクル 2015(ガートナー)



テクノロジーへの注目と、期待のゆらぎ

ハイプサイクルは何回も

例：手のひらサイズのミニコンピュータ
25年の時を経て、スマートフォンとして大衆に普及。

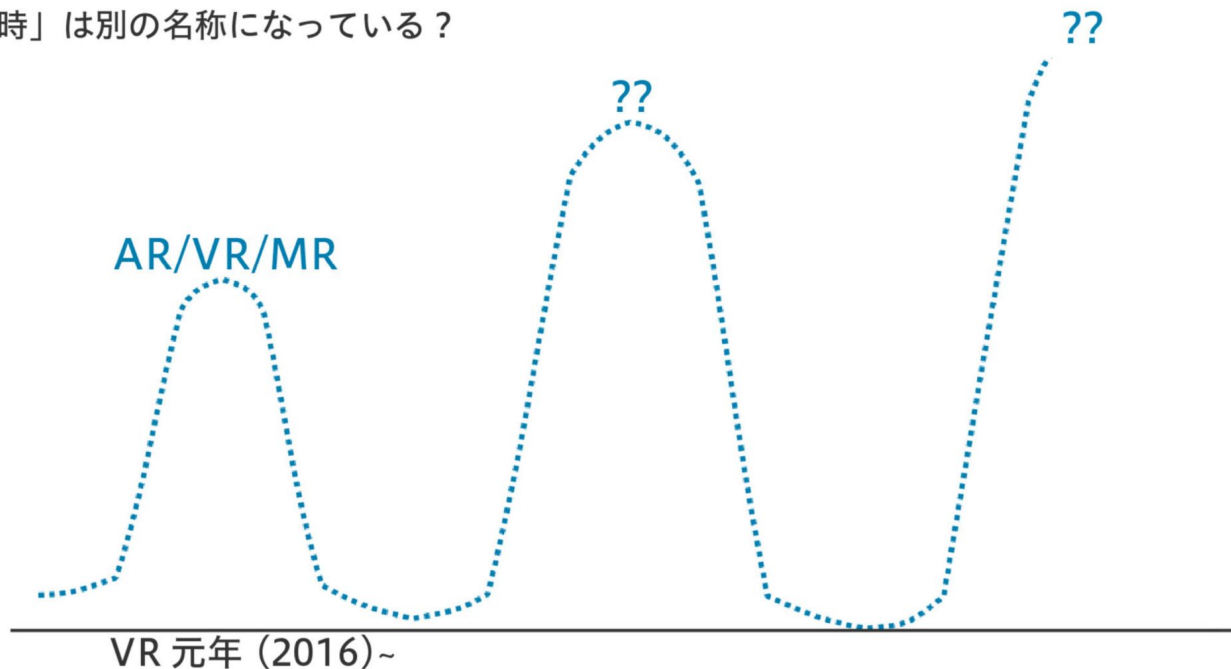


Copyright © 2018 Advanced IT Consortium to Evaluate, Apply and Drive All Rights Reserved. 出典:(株)NTTデータ経営研究所により作成

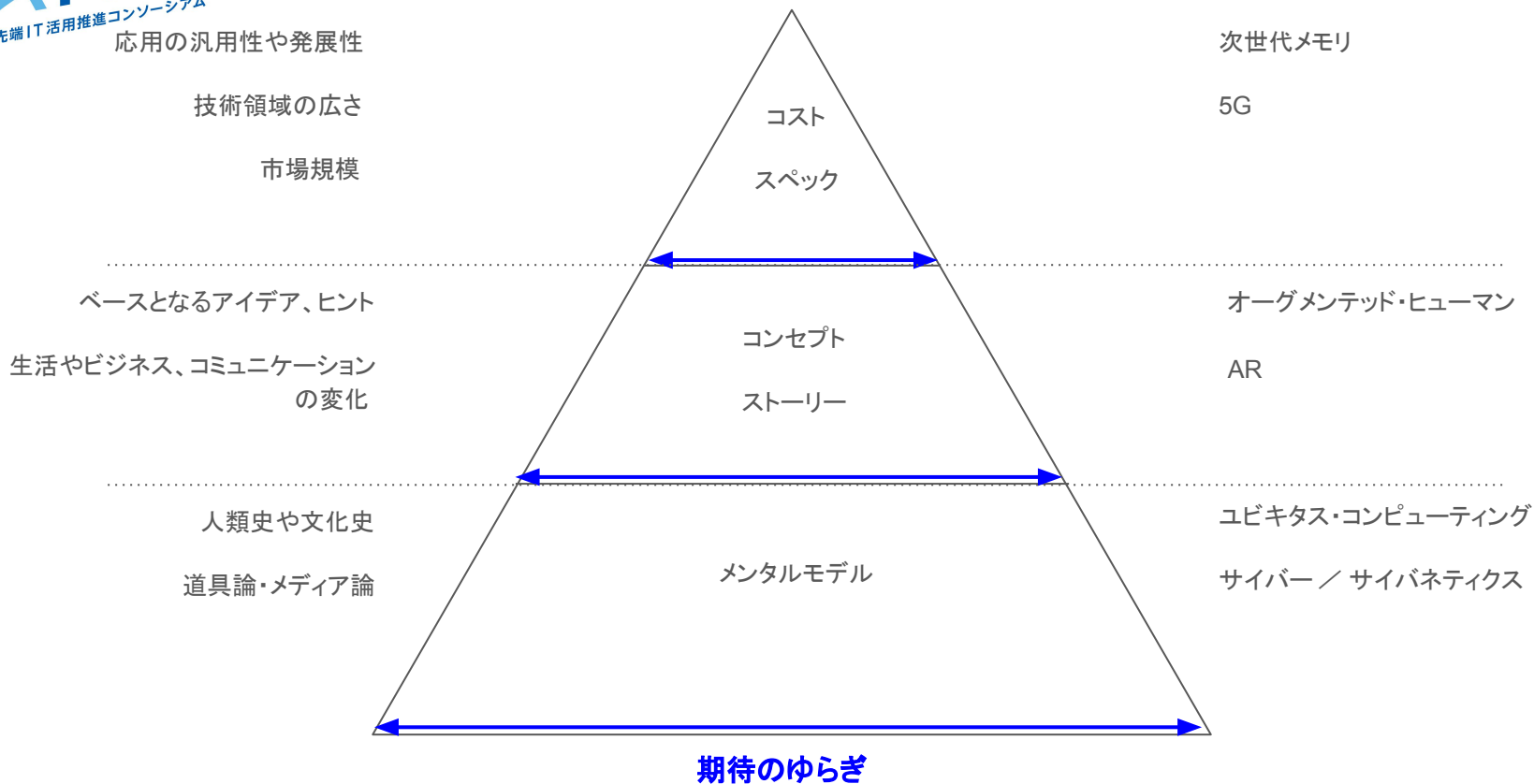
ハイプサイクルは何回も

例:AR/VR/MRは？

「離陸時」は別の名称になっている？



Copyright © 2018 Advanced IT Consortium to Evaluate, Apply and Drive All Rights Reserved. 出典:(株)NTTデータ経営研究所により作成



Augmented Human

身体の拡張

– prosthetic devices, exoskelton

感覚の拡張

– wearables, augmented reality, sensory substitution

認知の拡張

– out-of-body experience, Jackin, enhanced learning, ability transferring

存在の拡張

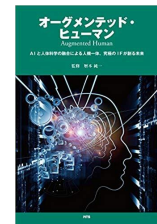
– telepresence, tele existence

参考：
東京大学 ヒューマンオーグメンテーション学
<https://humanaugmentation.jp/>

Augmented Human あるいは Human Augmentation

人と機械との一体化により、身体機能そのものを拡張・強化して不可能だったことを可能にする

「オーグメンテッド・ヒューマン Augmented Human
—AIと人体科学の融合による人機一体、究極のIFが創る未来」 暦本 純一



私たちは“ARの第2の波”に入っています。それはより没入感のある統合された、インタラクティブな体験を作り出しています。

「AUGMENTED HUMAN」
HELEN PAPAGANNIS



IoT から loAへ

注目すべきテーマ “IoA”

「もの x サービス x 人(能力)」がいつでも利用可能な状況